

保育文化賞 審査員講評 (写真の部)

<p>【保育文化賞】 「だいじょうぶ！つぎはかとうね！」</p>	<p>坂本ももか だん王夜間保育園</p>
<p>目に見えている被写体だけでなく、2人それぞれの気持ちがちゃんと伝わるように撮れています。写真の要素のひとつ、見事なシャッターチャンスですね。また、光の使い方も素晴らしく、背景から浮き上がって迫ってきます。</p> <p>タイトルもシンプルでうなずけますね。この瞬間のように、小さな子たちの日々の一瞬一瞬を育てている保育の現場の大切さまで感じられる秀作です。</p> <p>シャツのミャクミャクも2025年をストレートに表現できていますね。</p> <p>2人の未来に勝利あり！ですね。</p>	

<p>【優良賞】 「えのぐってふしぎ」</p>	<p>岡野衣里子 創作の杜おいけあした保育園</p>
<p>「えのぐってふしぎ」とタイトルがダイレクトに伝わる作品でした。目から入ってくる色という情報や、手で筆をつかみ、足にえのぐを塗り重ねていくことで触感という情報を得て、いろんな感覚をやしなっていくのだろうと、すごく大事なことだと思いました。それを、今、感じている、集中しているような表情がすごく印象的でした。</p> <p>そして、この色づかいは将来が楽しみです。</p>	

<p>【写真家 徳光ゆかり賞】 「青空さんぽ」</p>	<p>平元明菜 榎原保育園</p>
<p>写真作品として仕上がっています。まず光の使い方に拍手を！！</p> <p>次に奥行表現もできています。モデルの子達に何も押しつけていないのは、作品から感じられます。かなりの腕前の先生のように思いました。</p> <p>全体構図のバランスも◎ですね。空の分量などは見事です。子どもたちも自然も光として伝わってきます。</p>	

<p>【写真家 椎崎義之賞】 「葉っぱの下で寝ているダンゴムシ見つけたよ！」</p>	<p>花田 美穂 大谷園林こども園</p>
<p>まず最初に“きれいだ”と感じる作品でした。子どもたちの真剣なまなざしをとらえた瞬間もちろんシャッターチャンスでしたが、それ以上に光が顔を照らしたす様子が美しい。</p> <p>また逆光で背景が明るく(白く)なりすぎ、主役が目立たなくなることがありますが、画面上部に葉を取り入れたことで、子どもたちに見る側の視線を集中させることができたことが非常によかったです。なんだか絵画を見ているようでした。</p>	

保育文化賞 審査員講評 (写真の部)

<p>【美術家 山中隆賞】 「わたしもふくめてアートなの」</p>	<p>家村 裕美子 御所の杜ほいくえん</p>
<p>写真を見る限り、画面は身体よりはるかに大きいようです。床に平に置いた紙に絵の具で描かれたのでしょうか。画面の大きさを考えると何人かの友だちと一緒に活動したと思われる。</p> <p>この時は絵の具を用い、筆、ハケ、ローラー、その他の道具で全身を動かしながら描く楽しい時間だったと思われます。</p> <p>手をはじめ、身体や衣服のあちこちについた絵の具は、夢中になって活動した勲章のようです。成長してもこの体験が心の中に残ってほしいものです。</p>	

<p>【未来にはばたけ!保育者賞】 「ペーパートンネル 脱出!」</p>	<p>三上 琴乃 白い鳩保育園</p>
<p>グルグル巻きになったトイレットペーパー(?)の中から無事に脱出できたのであろうか?</p> <p>この満面の笑顔に溢れる爽快感に心を惹かれる。と同時に、この子の喜びと一緒に、これまた痛快の笑顔の保育者の姿が実に微笑ましくもありがたい。手前の子もまた、その仲間に入ろうとでもしているのであろうか?</p> <p>この様な環境の中でこそ、子どもたちは安心して試行錯誤しながら遊びこめるのであろう。</p>	

<p>【京都新聞賞】 「くちべにぬってあげるね」</p>	<p>樋口 美輪 久世保育所</p>
<p>メイクごっこセットで、おともだちとおしゃれを満喫している最中でしょうか。日頃、ご家庭やテレビなどで大人のしぐさを観察しているのでしょうか。真剣なまなざしで口紅を塗ってあげるお子さんと、化粧をしてもらうお子さんのにこやかな表情の対比がほほえましい一枚です。</p>	

<p>【こどもみらい館館長賞】 「魔女になって さあ しゅっぱつ!」</p>	<p>中山 敬子 若林保育園</p>
<p>ここはきっと魔法保育園なのですね。みんなに魔法がかけられてほんとに空を飛んでいるみたい!</p> <p>タイトルにピッタリのととても楽しい瞬間が記録されていて心を奪われました。</p> <p>構図もとても良く、中央に空間があることで、奥のこどもたちの浮遊感が強調されています。制服の白と緑が画面にさわやかさを作り出している美しい作品です。</p>	

保育文化賞 審査員講評 (写真の部)

<p>【子ども若者はぐくみ局長賞】 「たのんだぞ！！」</p>	<p>岡田 蒼天 村山保育園</p>
<p>みんなから「たのんだぞ！！」と期待を集めて、先生の助けも借りて、見事、ねらっていた虫(?)を捕ることができました。</p> <p>どんな難しいことでも、みんなが力を合わせれば、きっとできます。自分たちだけではできないかなと思えることも、助けてくれる人を上手に見つけることができれば、がんばってできるはずです。</p> <p>みんなで頑張った虫捕り、とても頼もしく微笑ましい写真です。周りで見ている子どもたちの「がんばれ、もうちょっと」という気持ちが伝わってきます。</p>	

<p>【京都市保育士会会長賞】 「これ何のタマゴ～?! (冬瓜だよ)」</p>	<p>北波 和恵 こども園 いしはら</p>
<p>えっ、これ何～。見たことないっ、こっちこんといて！さわりたいくなーい(手をひっこめてみる)、もう泣きそう…。初めてのモノとの出会いの一瞬、いろんな感情があふれてきます。そして横で正座されている先生。きっと笑顔で見ておられるのでしょう。人だけでなく、物との出会いも大切にされている保育が伝わってきます。</p>	

<p>【京都市保育園連盟理事長賞】 「悔しさマックス！」</p>	<p>西村 歩実 聖水保育園</p>
<p>きっともう勝てないと思ってしまうくらいの距離があるのだと一目でわかります。それでもみんなのために、そして自分の力を信じようとする表情が、タイトルとぴったり合っていて、躍動感あふれる一枚になっています。最後まで走り抜け！</p>	